

令和4年度 麻溝地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和4年11月1日（火）午後7時から午後8時40分まで
- 2 場 所 麻溝公民館大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、森副市長、菅谷南区長、宮崎脱炭素社会・資源循環推進担当部長、
仙波南区副区長
川村市民局長
- 4 出席委員等 22人
- 5 傍聴者 4人
- 6 懇談会の要旨

テ ー マ	ごみ置場の適正管理の推進及び次期一般廃棄物最終処分場候補地選定について
概要	<p>相模原市では、ごみ置場は排出者側で確保し管理することとされ、多くのごみ置場は自治会が管理しているが、ごみ出しルールが一向に守られず、自治会役員の負担が大きくなっている。市が行っている分別未実施の一般ごみは収集しない取組も効果がなく、自治会役員の負担ばかりが増える結果となっている。自治会加入率が5割を下回る現状を踏まえれば、自治会だけで適正に管理していくことは困難であり、市にも一定の責任を持っていただき、協働して対応していく必要があると考えている。自治会未加入者への啓発、ごみ置場設置・管理経費の助成、公園等市有地へのごみ置場設置に係る政策的配慮、戸別収集の導入等について懇談したい。</p> <p>また、当地区には、ごみ処理関連施設が集中しており、更に次期一般廃棄物最終処分場の候補地として、現在の最終処分場に隣接する2箇所が選定されたことについても、地域住民の視点に立った将来のまちづくりの観点から懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<p>ごみ出しのルールが守られておらず、未分別のごみの分別など自治会役員の負担が非常に大きくなっている。自治会だけで管理することは難しく、市自治会連合会を通じて市に政策要望も行っており、また、自治会長会議の中に「ごみ置場についての課題検討部会」を設置し市と数回懇談もしていたが、政策要望に対する市の回答は納得できるものではなかったため、本日のテーマで懇談することとなった。</p> <p>不法投棄や未分別のため長期間収集されていないごみがあり、ごみ置場が壊されていることもある。対策として簡易カメラを設置し撮影したが、カメラの映像には車で来た外国人が大量のごみを捨てる姿が写っており驚いた。カメラで撮影した映像をもとに、ごみ置場へ注意喚起の掲示を行い、若干効果はあったが簡易カメラは電池やSDカードの交換が週2回程度必要であり、維持に負担がある。</p> <p>また、ソファーや消火器等が不法投棄されていたごみ置場について、草を刈り、4万円かけ、土地も借りたうえで整備したが汚物が捨てられていたこともあった。</p> <p>最近、ごみ置場の状況調査を実施したが、全56箇所中、問題がないところは50%、ごみが少しあるところが9%、問題があるところで、2週間以内の未収集品のごみがあるところが22%、粗大ごみ、長期の未収集品があるところが19%で、全体の約40%は何等かの問題があるという結果であった。</p>

実際に、未分別のため収集されなかったごみのシールを確認したところ、シールの貼り付けが4月6日で確認時6月5日であったため、約2ヶ月収集されていないことが分かった。

粗大ごみは掃除機やテレビ、ストーブや扇風機などがあり、自治会としても対策はしており、麻溝台環境事業所と連携してごみ出しルールの遵守やマナー向上のため、一般ごみ収集日に「早朝啓発活動」を実施している。7月から10月に計4回、8箇所を実施し、自治会員も10名ほど参加した。また、青色パトロールカーでごみ関係のアナウンスをお願いしている。

ここからはお願いごとになるが、未分別のごみや不法投棄の長期間収集されていないごみについては、現在は自治会から麻溝台環境事業所に連絡し収集をお願いしているが、自治会員の負担になっているため、2週間経過したものは自動的に収集していただきたい。また、長期間収集されていないごみについて、収集を徹底してほしい。

また、ごみの分別などに対する啓発は自治会加入者には回覧板等で行っている。要望として、自治会未加入者に対して更なる啓発を実施してほしい。

ごみ置場の設置、管理費について、ごみ置場は自治会未加入者も使用しているが自治会で設置、補修している。自治会加入率は約50%であり自治会未加入者も使用していることから、設置、補修に関して助成してほしい。

また、ごみ置場の場所確保について、消防から防火水槽の敷地を借用しごみ置場を設置することが出来た。その他の市有地で例えば公園など、都市公園法で設置できないことは承知しているが、設置できるよう政策的な配慮をお願いしたい。

ごみ置場の物量が増えているように感じている。これは清掃工場への一般ごみの直接搬入が有料化されたためであると考えられるため、以前のように100キロ以下の直接搬入は無料化してほしい。

また、戸別収集の導入を検討してほしい。戸別収集が導入されればごみの削減、分別の徹底、不法投棄の根絶につながると考えられる。

次に、次期一般廃棄物最終処分場の候補地に関することについて、候補地の周辺は相模原公園や麻溝公園、ギオンスタジアムなど、多くの人が訪れる施設が立地しており、南清掃工場や峰山霊園、福祉施設もある。また、最近人気がある農業体験が出来る施設や、麻溝台・新磯野の整備地区がある。

現在の処分場は地形的に窪地となっており、耕作が出来なかったため、その土地を利用し整備している。

候補地については、山林部分があるが、昔から山林だった訳ではなく、木を植えて山林となっており、現在首都圏の近郊緑地保全区域に指定されている。相模原公園から緑の街道のような形でつながっており、なくなることは地域にとっても相模原市にとっても大きなマイナスになると考えられる。

また、畑部分については陸軍の士官学校の練兵場として接收され、その後開墾し現在に至っている。南清掃工場から距離が近く、経済的には有利な部分もあるが歴史も踏まえると建設には疑問がある。

候補地は圏央道のインターにも近く非常に可能性のある地域であると考えられ、地域の発展につながる土地利用を検討すべきだと考える。

	<p>また、次期一般廃棄物最終処分場については、埋め立ての期間が15年となっているが、これでは新しい処分場が出来た段階ですぐに次の処分場を作る検討に入らなければならないと思われる。審議会の答申では4箇所候補地が出ているが、候補地を順次処分場にしていくようなことになり得る。</p> <p>いずれ行き詰まってしまうということも想定されるため、大幅なごみの減量化も併せて考える必要があると考える。</p>
<p>市の取組 状況等</p>	<p>未分別のごみや不法投棄された粗大ごみを2週間経過した段階で収集することについては、現在1ヶ月を目途に収集しており、未分別のごみなどが増えた場合はその段階で収集している。</p> <p>ごみ収集は毎日実施しているものではないため、粗大ごみがどのタイミングで出ているか分からないことから、地域の方から市に通報していただく必要があるとご理解をいただきたい。</p> <p>自治会未加入者への啓発については、例えば市のホームページ、広報さがみはら、ごみ収集に関する冊子、ごみ分別アプリ、またLINEの公式アカウント、ツイッターを活用し周知している。</p> <p>また、相談会やまちかど講座として、ごみの分別などに関することを自治会や小学校、保育園や幼稚園で実施している。さらに未分別のごみへのシールの貼り付けや早朝啓発活動も実施しており、その他の周知方法等があれば地域の皆様からのご意見をいただきたい。</p> <p>ごみ置場に関する設置管理費の助成については、平成21年度まではごみの収集容器の購入費や、ごみ置場の補修費を資源分別回収事業奨励金として交付していた。</p> <p>平成22年度からは、自治会活動推進奨励金として、ごみの関係の奨励金も含めた形で交付している。</p> <p>新設ごみ置場の確保について、公園は法的な要件もあり難しい部分もあるが未利用地については自治会の皆様等と相談をさせていただき検討していきたい。</p> <p>また、100世帯を超えるごみ置場はあまり聞かず、大きいごみ置場は色々なごみを出しやすくなってしまいうことも想定される。市としては概ね10世帯程度が1つのごみ置場と考えているため、分割するといったことも検討できれば良いと思われる。</p> <p>ごみ置場の物量の増大について、清掃工場への持ち込みが有料になったことが要因ではないかとの意見があったが、一般ごみの持ち込みの減少とともに、清掃工場での全体のごみの量も減少している。</p> <p>戸別収集の導入について、現在他市での状況などを調査している。相模原市は約34万世帯と世帯数が多いため、収集ができる体制を整えることが出来るか検討が必要であり、また経費についても大きな金額になることが予想される。</p> <p>現在一般廃棄物処理基本計画の見直しの時期となっているため、相模原市に適した収集体制のあり方を検討していく。</p> <p>次期一般廃棄物最終処分場の候補地について、現在4箇所の候補地において9月末時点で24回説明会を行っており、今後も説明会を実施する予定である。</p> <p>また、最終処分場の埋め立ての期間が15年となっていることについては、国から15年間で計画を作成するよう示されている。しかしながら、ごみの減量も</p>

	図りながら15年以上使用できるような処分場にしていく必要があると考えている。(宮崎 脱炭素社会・資源循環推進担当部長)
--	---

懇談内容	
地区の発言	未分別のごみ、粗大ごみ等を2週間経過した段階で収集することについて、現在1ヶ月で収集しているとの話であったが、以前市の職員からは2週間経過したら収集すると聞いていた。2週間から1ヶ月に延びたのか。
市の発言	2週間から1ヶ月に延びた認識はなく、以前から1ヶ月で収集することとしていた。シールを貼り付けたうえで、未分別であること等の周知の期間を考え1ヶ月の期間を設定している。(宮崎 脱炭素社会・資源循環推進担当部長)
地区の発言	<p>周知しても現状効果が出ていない。シールを貼っても持って帰る人はいない。</p> <p>不法投棄された粗大ごみについて、なぜ自治会から市に連絡する必要があるのか。週に複数回、収集員が収集に来ているため、収集員が把握できるはずであり自治会が連絡する必要はないと思われる。</p> <p>また、ごみ置場に関する設置管理費の助成について、現在の奨励金は自治会員の数に応じて算出されているが、ごみ置場は未加入者も利用している。住んでる人の世帯数から算出するなど検討する必要があると考える。</p> <p>また、ごみ置場について100世帯は多いが、置き場所がなく本来であれば10世帯ごとなど細かく置いていきたい。しかし置場を確保できない状況で、消防の協力もあり防火水槽に設置できたケースはあるが、増やせたのは約7年ぶりであった。</p> <p>また、公園へのごみ置場設置は都市公園法の関係で、設置できないことは知っているが、なんとか政策的配慮で設置できないかということをお願いしている。</p>
地区の発言	<p>未分別のごみが放置されると、ごみが増え、それがまたごみと呼ぶような状況となり非常に汚い状態になってしまう。1ヶ月の期間は仕方ないと思うが、期間が来たらしっかりと収集してほしい。</p> <p>ごみ置場の設置については、新たに設置するために場所を探しても見つからない。そのため公共用地を検討するが許可も出ない。結局設置できる場所がないため、許可を受けずに設置している場合もあると思われ、無許可なことについて撤去するよう指導されたこともない。</p> <p>ある地域ではアダプト制度で掃除をするため、場所を貸してほしいと相談したが貸してもらえなかったという例も伺っている。</p> <p>難しい問題ではあるが、しっかり相談にのってほしい。</p>
市の発言	<p>公園へのごみ置場設置は、色々と難しいが、地域と一緒に考えていきたい。</p> <p>また、不法投棄された粗大ごみなどについて、収集員が把握しているのではないかとの話について、粗大ごみはごみの集積場へ出すものではない。</p> <p>分別収集についてはご指摘のとおりであるが、現在、シールを貼り付け分別について周知する取組みは試験期間中である。1回出したものを持ち帰る人は、なかなかいないのではないかという指摘もいただいております。今後どのような形で対応するか、検討していきたいと考えている。</p>

	<p>また、補助金については、現状自治会加入世帯数により算出されている。自治会関係の補助金については、ごみの問題以外にも様々なものについて、自治会へお願いしていることがあるため、どのような形がふさわしいか検討していきたい。また、どのような経費が不足しているかなど、伺ってきたい。</p> <p style="text-align: center;">（宮崎 脱炭素社会・資源循環推進担当部長）</p> <p>未分別のごみへ啓発シールを貼るだけではなかなか効果がないということもあるがマナーアップが重要であると考え。防犯カメラを設置することで効果を上げることも出来たと思うが、全てのごみ置場に設置するのは困難だと思われ、やはりマナーが大事。</p> <p>本市の自治会加入率は50%を切っているが加入率の向上に取り組んでいるところである。また、自治会未加入者への啓発が重要であり、現状もホームページやツイッターなどを活用し取り組んでいるが、情報が届いていない方々にどのように情報を届けていくかが最大の課題であると認識しており、更に取組みを進めたいと考えている。</p> <p>昨年、防災ガイドマップを34万世帯すべてに配布した。また、今後中山間地域の医療の在り方を検討し、津久井地域の7万人の方々すべてにお知らせしたいと考えている。ごみの課題についても同じように、どのように情報を届けるか考えていきたい。</p> <p>また、都市公園法の関係は、国で法律を変えたうえで、市で条例改正を実施すれば可能であると思われるが、子育て世代との調和の問題、安全、安心の問題もあるため、難しい部分もあると思われる。未利用地等も含めて、住民の皆さんに寄り添った対応が必要であると痛感している。</p> <p>戸別収集については、近隣では町田市や八王子市、政令指定都市では名古屋市、大阪市、堺市、福岡市が実施しており、ごみ有料化も含めて実施している例がある。戸別収集を実施する場合、有料化が避けられない部分になるが、戸別収集に関しては検討すべき課題と考えているため、今日いただいたご意見も踏まえ検討したい。（本村市長）</p>
<p>地区の発言</p>	<p>100世帯が利用するごみ置場があることは驚いた。所属している自治会は15から20世帯のごみ置場が多く、その程度の世帯数であればごみを誰が出して、出していないか等、管理しやすい。ごみ置場を増やした方が良いと考えるが、自治会だけに任せるのではなく、市も自治会と共に取り組むことを要望する。</p>
<p>地区の発言</p>	<p>外国人に限らず日本人も車でごみ置場にきて捨てていく姿を見る。不法投棄をした方に注意するための通知を出すなど対応をしているが効果はない。ごみ出しの啓発書類等を見る方はほぼすべて正しく分別を行い、不法投棄もしない。啓発書類を見ない人が不法投棄をする。そのため不法投棄等に関する対応策は啓発活動ではなく戸別収集しかない。啓発をしても見ないため効果はない。</p>
<p>市の発言</p>	<p>行政の課題は縦割りであり横串が弱いところだと考えている。市民から見ただけが実施しようが関係ない話だと考えているため、自治会関係だからどこがやるというわけではなく取組まないといけない。ごみ問題の話は麻溝地区だけではなく他の地区でも問題になっていると思われる。</p> <p>戸別収集については、市でも議論している。有料化が伴うことも想定される</p>

	<p>が、いただいたご意見も踏まえて検討していきたい。</p> <p>また、民間企業と連携しごみを資源にしていこうという発想で展開していきたいとも考えているため、引き続き多様な取組みを進めたい。（本村市長）</p>
地区の発言	<p>以前ごみ置場に便座が捨ててあり、収集されず自ら分解した経験がある。</p> <p>未分別のごみ等について、以前は2週間程度で収集されていた。今は1ヶ月とのことだが、ごみが放置されていると、どんどんごみが増えていく。ごみ置場を掃除したくても、掃除できない状況となる。綺麗なごみ置場にはごみは集まらない。未分別のごみ等は啓発シール等を貼り付けて1ヶ月经過後に収集することだが、期間設定が長すぎるため1週間程度で収集してもらいたい。</p>
市の発言	<p>1ヶ月の期間設定については現在試験的に実施しているため、いただいた意見を踏まえ検討したい。（宮崎 脱炭素社会・資源循環推進担当部長）</p>
地区の発言	<p>安全、安心のまちづくりの観点で考えると、汚れているまちでは犯罪が起きやすい。ごみ等は放置せずにすぐに収集してほしい。青色パトロールカーなども活用しながら、防犯パトロールを実施しているが、パトロールの際はごみ置場の状況も注意しながら実施している。</p> <p>また、ごみ収集車で放送を流し啓発することも良いのではないか。</p>
市の発言	<p>ごみ収集車で放送を流し啓発するとの意見について、良い案だと考えられるため検討したい。（宮崎 脱炭素社会・資源循環推進担当部長）</p>
地区の発言	<p>相模原養護学校は日々地域の方々に支えられており、何か地域の役に立てることはないかと考えていた。今回、意識の向上として、ごみのことを学べる塗り絵を作成した。小さな時からごみのことについて学べる機会となるため、啓発活動に役立てられればと考えている。</p>
地区の発言	<p>本日は「ごみ置場の適正管理の推進及び次期一般廃棄物最終処分場候補地選定について」をテーマに懇談した。</p> <p>ごみの問題は、ごみの分別からごみ置場の設置管理、それから中間処理としての収集焼却、最終の埋め立て処分までをトータルで考えなければならない。</p> <p>ごみ置場については、自治会の加入率も低下している中で、地域と市が一緒になって取り組んでいく必要がある。一緒に取り組むことで良いアイデアも出ると考える。</p> <p>また、一般廃棄物最終処分場について、4箇所が立地できる場所として候補地になっている。逆に言えば立地できるのは4箇所しかない。そのため、抜本的にごみの量を減らす取組みも重要と考える。</p> <p>一般廃棄物最終処分場のある住民だけに負担を強いるのではなく、すべての市民が痛みを共有し、有料化等も待ったなしで検討する必要があると考える。</p>

市長の
感想等

本日は「ごみ置場の適正管理の推進及び次期一般廃棄物最終処分場候補地選定について」をテーマに懇談し、たくさんの貴重な意見をいただき、やはり対話が大切だと改めて感じた。

相模原養護学校の塗り絵のお話をお伺いし、このような取組が非常に重要であると感じる。本市ではSDGsの取組を進めている。市長になった際は、あまり知られていなかったが、「誰1人取り残さない」という国連が定めた2030年までに持続可能なよりよい世界を目指す国際目標に定めているもので、私たち自身も勉強し、そして市民の皆さんとも一緒になって協働して取組を進めており、最近では「SDGsの取組みといえば相模原市」と言われることも増えた。

SDGsに関する教育も導入しており、こども達から教わり、刺激を受けることもある。ごみの分別についてもこども達にも学んでもらい、こどもからシニア世代まで幅広い世代が同じ方向性で取り組んでいければ良いと考える。

また、一般廃棄物最終処分場については、4箇所の候補地のうち2箇所が麻溝地区であり、いかがなものかとの意見は何度もいただいている。地域の皆様と対話をしながら、最終的には責任をもって決めていきたい。

本日いただいた意見で未分別のごみの収集に1ヶ月啓発の期間をとっていることについて、実態に合っていないところもあると感じた。本日は副市長、区長等も来ているが市の職員の発言は市長の発言ととらえていただき、最終的に市長に責任が生じるものと考えており、本日のような大きな会議だけではなく、顔の見える関係で対話を進めていきたいと考えている。今後もこのような対話は続けていきたいと考えているため、引き続きお願いしたい。（本村市長）